

外国につながるのある子どもたちを地域で支える

心理コーディネーター養成講座

不登校になりそうな児童生徒、
不登校・不就学になっている児童生徒を
地域の力とつなげることでサポートするコーディネーター



みんなでいっしょに学びます！

グレーな状況などでの心理的な問題の見つけ方を理解して、
問題の悪化を防ぎ、予防や専門家への的を得たつなぎ方を、
皆さんからの事例を基に、どう解決や改善につなげるか

外国人児童生徒の心理サポートに関心のある皆さん
講義とグループワークで基礎知識と実践の知恵を学びましょう

講師： 明治学院大学心理学部 特別プロジェクトの研究者

教授 阿部裕、教授 緒方明子、教授 澁谷恵、准教授 鞍馬裕美、助手 横澤直文

研究員 津田友理香(四谷ゆいクリニック・国立国際医療研究センター)

研究員 田中ネリ(四谷ゆいクリニック・千葉メンタルクリニック)

日時:2017年10月21日(土)、11月4日(土)、11月18日(土)、11月25日(土)、12月2日(土)
12月9日(土)、12月16日(土) 全7回 部分参加も歓迎です
15:40~17:40 (講義とグループワーク)

参加対象: 外国人児童生徒の心理サポートに関心のある方(日本人、外国人) 定員:15名

場所: 伊勢崎市紺の郷(群馬県伊勢崎市昭和町1712番地2)

問い合わせ・申し込み先:

お名前、住所、職業もしくは所属、電話番号、メールアドレス、年齢、国籍を添えお申し込み下さい
Email: jp.ed.jcommunication@gmail.com 電話: 070-5021-9103

主催: 群馬県

共催: 明治学院大学心理学部 特別プロジェクト

委託実施団体: NPO法人 Jコミュニケーション(伊勢崎市本町20-1 SOAビル201)

スケジュールと講義内容



■ 10月21日(土) 講師: 明治学院大学心理学部 助手 臨床心理士 横澤直文

第1回 心理教育的にみたストレスと精神疾患のサイン

ストレス社会と言われる現代では、大人に限らず子どもも様々なストレスを抱えて生きています。本講義では、一般的な子どものストレスやこころの問題を踏まえつつ、外国人の子ども特有のストレス要因についてもお話します。

■ 11月4日(土) 講師: 明治学院大学心理学部教育発達学科 教授 緒方明子

第2回 事例検討(学習や発達面の問題)

参加者から「どのように対応すればよいかわからない」事例を出していただき、小グループで検討する時間にしたいと考えています。各事例の実態把握の方法、支援プログラムや教材、教室や家庭でできる支援を具体的に提案したいと思います。

■ 11月18日(土) 講師: 明治学院大学心理学部心理学科 教授 阿部裕 精神科医

第3回 事例検討

スカイプを用いた事例の検討会(この回のみ、開催時刻は別途ご案内します)。
外国籍の大人や子どもの相談に対応されて、どうしたらいいか困ったケースをお持ちのことと思います。そうした事例を守秘義務の守れる範囲で、みなで検討し、どうしたら一番良かったのかを考えたいと思います。

■ 11月25日(土) 講師: 四谷ゆいクリニック・国立国際医療研究センター小児科 臨床心理士
津田友理香

第4回 多文化につながる子どもと家族の心理支援

多文化につながる子どもと家族を理解するためには、かれらを取り巻く生活状況や文化的価値観のヒアリングが欠かせません。ケーススタディを通して、多文化につながる子どもと家族の社会文化的背景について理解し、こころの支援を行うポイントについて皆さんと議論できたらと思います。

■ 12月2日(土) 講師: 四谷ゆいクリニック・千葉メンタルクリニック 臨床心理士
田中ネリ

第5回 事例検討

目の前の子どもを理解するために私たちはどういう点に目を向け、関係性の中でどう対応したらいいのか、また外国につながる子どもと家族の場合、どういう点に配慮したらいいのか、実際のケースを通して皆さんと共に検討していきたいと思います。

■ 12月9日(土) 講師: 明治学院大学心理学部教育発達学科 准教授 鞍馬裕美

第6回 学校のプラットフォーム化と多職種連携

近年、社会経済上不利な立場にある子どもたちの存在とその問題が指摘され、学校をプラットフォーム化し、多職種連携に基づく学校経営及び教育の実現を目指す動きがみられます。講義とワークを通じて、求められる社会資源を析出しつつ、学校における多職種連携の現状と課題の検証を試みます。

■ 12月16日(土) 講師: 明治学院大学心理学部教育発達学科 教授 澁谷恵

第7回 支援者自身の多文化理解・コミュニケーション

多文化環境で支援を行う際には、子どもたちの心や文化的背景を理解するとともに、多様性に関わる際の私たち自身の意識や感じ方、関係のなかでの自分自身の「立場」を知ることが大切です。講義とワークを通して、多文化環境での共生と支援について考えてみましょう。